

平成 30 年度第 1 回市民健康づくり推進協議会議事録（公開用）

日 時	平成 30 年 6 月 28 日（木） 14 : 00～15 : 30
場 所	平塚市保健センター 3 階 会議室 1、2
出席者	委 員 濱島委員、古正委員、小宮山委員、大草委員、石原委員、中村委員、 片岡委員、尾崎委員、竹下委員、岡田委員、福田委員、米村委員 事務局 磯部課長、鶴井課長代理、萩尾課長代理、古田主管、小泉主査 傍聴人 なし

1 開会

2 自己紹介

3 会長、副会長の選出

委員の互選により、次の通り決定した。

会 長 小宮山 学 委員（平塚市医師会）

副会長 中村 由紀子 委員（平塚中郡薬剤師会）

4 議題

① 平成 29 年度の事業報告について

ア 平成 29 年度健康増進計画推進事業報告

事務局から、平成 29 年度健康増進計画推進事業報告について説明。

【会長】資料の「関係機関・団体及び行政の役割に関すること」の中で、様々な事業がありますが、市が主体となって実施しているのでしょうか。あるいは、関連機関が主体となって市がサポートして実施しているのでしょうか。

【事務局】各関連機関が主体となって行っているものと、市が主体となっているものと両方ございます。

【会長】健康推進員について、具体的にどのような形で御活躍されていらっしゃるのですか。

【事務局】健康推進員養成講座を受けられた受講生の方たちが、市長の委嘱を受けまして、まず健康推進連絡協議会という団体に入っております。活動内容としては、ブロック活動とプロジェクト活動があります。ブロック活動は、東西南北ブロックのうち、御本人が住んでいらっしゃる地域の中で、健康づくりの活動をしていただいています。広範のグループが連携して行っている活動もあります。また、プロジェクト活動では、くすの木体操の普及啓発や月に 1 回行われているウォーキングを開催しています。また、体力テストなどで、公民館まつりの中で御協力いただいているものもあります。

イ ネウボラールーム はぐくみの運営状況

事務局から、ネウボラールームはぐくみについて説明。

【会長】ネウボラームの来所数と出生数の数が異なるのはなぜでしょうか。

【事務局】来所数は、母子手帳の交付だけではなく、産科では相談できないような悩みを抱えている場合、母子手帳交付後に相談を受けるために後日窓口に来られる方もいらっしゃるため、出生数と来所者数に人数の差が生じます。

ウ ㈱DHCとの協定

事務局から、㈱DHCとの協定について説明。

【委員】広報活動をされたという説明がありましたが、どのようなところで行ったのでしょうか。花菜ガーデンにてサンプルの配布を行ったとのことですが、花菜ガーデンは遠すぎます。もう少し、市の中心地で実施したら良いかと思えます。もし、このような事業を定期的実施するのであれば、市の広報紙に事業の内容を掲載したら良いのではないのでしょうか。

【事務局】広報紙については、いろいろな場面を捉えて記事を掲載していますが、紙面が限られているため企業の営利と捉えかねないような内容については、庁内において掲載することに慎重になっています。市民の健康や健康長寿に繋がる栄養素もありますので、今後なるべく広く周知できるように、ローカル紙への掲載依頼やホームページ等の様々な形で発信していきたいと考えています。

【委員】ホームページはアクセス数が増えているようなので、市民の目に留まりやすいと思えます。いろいろな御意見をいただくとありますが、意見があるということは、何らかの反応があったということですので、そのような方法を使えたらよいと思えます。

【会長】この事業自体は、DHCは営利目的ではない位置づけとして行っているのでしょうか。

【事務局】この事業は、営利目的ではありません。前回の講座では、サプリメントの表示の見方についての内容でした。講座の中で、見本としてDHCの商品を参加者に見てもらうことはありますが、講座の会場で商品を販売するということは一切ありませんし、その点については、企業も行政も慎重に行っています。DHCの商品を買ってもらいたいということではなく、内容としては、サプリメントの適正利用や栄養素の正しい認識が中心となります。

【会長】私自身が気になったのは、葉酸が二分脊椎の予防になるという意味では医学的にはっきりと証明されていますが、脳卒中や認知症の予防については、そこまでしっかりと医学的に証明されているわけではないので、そのようなことを目的に説明されてしまうのはどうかという懸念はあります。

【事務局】葉酸が脳卒中、認知症の予防になるということは医学的にはっきりとは証明されていないということですが、この説を唱えているのはDHCの医師だけではありません。例えば、女子栄養大学の香川教授が実際に埼玉県坂戸市で葉酸プロジェクトを展開されており、その内容がメディアにも取り上げられました。また、アメリカでは、研究の成果が出ているということもあります。慎重にはありますが、理解していただける方には、葉酸は勧めたい栄養だと思えます。あまり取りすぎるといろいろな弊害が生じますが、水溶性ビタミンですので、それほど恐ろしいものではないと思えます。

【会長】栄養素は食事からメインで取るということが基本だと思います。

【事務局】おっしゃる通りだと思います。ただ、例えば高齢者の場合、自分で献立を立てて材料を購入して調理をした食事の中から、必要な栄養をすべて摂取することは難しいところもあると思いますので、それをサプリメントで補うということもあるかと思います。

② 平成 30 年度の保健事業について

ア 平成 30 年度保健事業の実施方針

【質疑応答なし】

イ 平成 30 年度健康増進計画推進事業計画

事務局から、平成 30 年度健康増進計画推進事業計画について説明した。

【会長】未就学児については、子どもの生活習慣病予防対策事業での巡回教室を行っていますが、小・中・高校については、何か事業を行っているのでしょうか。

【事務局】小・中・高校については、学校保健と連携という形で、思春期の教育等を行っています。

【委員】食生活改善推進員養成講座について、回数が減っていますが参加者が少なくなってきたのでしょうか。

【事務局】昨年は一昨年と比べるとだいぶ人数が減ってきています。今までは全 12 回の講座だったのですが、回数が多すぎるといった意見があったので、今回はもう少し負担を軽くするために 10 回とさせていただきました。

【委員】新しいメンバーがなかなか入ってこないのですね。

【事務局】食生活改善推進員だけではなく、健康推進員もそうなのですが、若い方を取り入れることがなかなか難しくなってきており、その点が課題だと思います。

【委員】食育はとても大事であり、健康の基本となりますので、なるべく協力したいと思います。

ウ 産後ケア事業

事務局から、産後ケア事業について説明した。

【委員】ネウボラができてから、母子手帳をもらった後もいろいろと相談ができるようになったことはとても良いことだと思います。私が住んでいる金目や真田地域は若い世代が増えて、赤ちゃんがたくさんいます。そのような方に周知ができてほしいと思います。産後ルーム「ママはぐ」についてですが、定員が 20 名となっていますが、毎回このくらいの方が参加されているのですか。

【事務局】今のところ、参加者が多い日で 10 人ぐらいとなっています。もう少しお越ししていただいても、受け入れることができます。

【委員】生後 4 か月未満のお子さんを連れて参加するものなので、お子さんが小さすぎて外出できない方もいらっしゃると思います。

【事務局】そうですね。今のところこのような形で実施しておりますが、そのようなお声がありましたら、今後考えていただきたいと思います。また、ある程度お子さんが大きくなると、別に相談する場がありますので、そちらを御利用していただくこともできます。

【委員】郊外の地域は、少しの時間預かってもらう施設や保育園も定員がいっぱいのため、一時預かりもすることもできない状況です。今だけのことかもしれませんが、今必要なことなので、地域限定でそのような相談所のようなものができるとうれしいと思います。

【事務局】健康課だけではなく、健康・こども部の中で金目地区の人口増の問題については常に協議しております。行政が事業を実施する場合には、きちんと場所を確保する必要があり、施設や設備、職員の確保などが必要なため、なかなかすぐに対応することができないのが心苦しいのですが、市としても課題を十分承知しておりますので、今しばらくお待ちくださるようお願いいたします。

【委員】都市計画が何十年も前からできているのですから、保健施設についても計画を立ててほしかったと思っています。

【会長】産後ルームについてすごく良いと思っていたのですが、周知はどのようにしているのでしょうか。

【事務局】ネウボラに来られている方にお渡ししていますが、ネウボラに来所される方は妊娠初期の方が多いので、産後についての内容はピンとこないことが多いです。ですから、市内の産科にちらしを配架させていただいて周知しています。また、ローカル紙にも掲載させていただいています。

【会長】小児科でも、生後2か月から予防接種が始まり、4か月では乳幼児健診があるため、出産後間もない方に接する機会が多いです。そのため、小児科でも産後うつに気が付くことがあるので、できれば小児科まで周知の場を広げてもらえればと思います。良い企画だと思いますので、周知の場を広げてもらいたいと思います。

エ がん検診の新規事業

事務局から、がん検診の新規事業について説明した。

【質疑応答なし】

4 閉会

以 上